大草原の国・モンゴル

8 月 18 日、飾磨橋東公民館で国際理解出前講座を実施し、13 名が参加しました。

講師は、モンゴル出身のアサルト・レンツェンホルロー・オユンゲレルさんです。留学で 2004 年に来日した後、日本人と結婚し、19 年間日本に住んでいます。

来日したとき、時間の厳守が求められること、食文化（日本食の甘さ、魚を食べることなど）や、物価の違いに戸惑ったそうです。また、日本国籍は取っておらず、夫婦別姓なので、子どもとの親子関係を証明するのにいつも手続きが煩雑なことについて話しました。

モンゴルの気候や遊牧民の生活、民族の祭り、お正月のお祝いの仕方などについてお話いただきました。モンゴルにも四季があり、冬は、－40 度ぐらいまで気温が下がります。遊牧民は、ゲルという移動式住居で生活していますが、ゲルの中にストーブを焚き、ウール（羊の毛）でできたフェルトで外側を覆っているため、冬でも暖かいそうです。参加者の中には、モンゴルに観光で行った際に実際にゲルに宿泊した方がいて、「暖かかった」とのことでした。

普段、なかなか聞く機会のないモンゴルの話を参加者は興味深く受講し、産業や交通機関などについて多くの質問も出ました。

また、講義の後、講師が持参された馬頭琴や写真集、民族衣装、おもちゃなどを実際に手に取って、講師と交流しました。

地理的にも民族的にも近いモンゴルですが、その情報は日本にはあまり入ってきません。今回の講座をきっかけにモンゴルに興味を持つとともに日本についても考えるきっかけとなれば、幸いです。

公益財団法人
姫路市文化国際交流財団
HIMEJI CULTURAL AND INTERNATIONAL EXCHANGE FOUNDATION